



更女しまね

第7号 2020.12.1

島根県更生保護女性連盟 松江保護観察所内 TEL (0852) 21-3767



石見神楽について

令和元年5月20日(月)石見神楽の里・江津市浜田市をはじめ石見9市町を舞台とするストーリー「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～」が文化庁により日本遺産に認定されました。

御挨拶



松江保護観察所
企画調整課長 今村 智

中国地方更生保護委員会更生保護
管理官から企画調整課長として参り

ました。今回の転勤で、中国地方全ての県を回る事ができ以前から島根県更生保護女性連盟の皆様は、愛の募金、愛の図書という独自の取組をしておられるとうかがっておりました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行で、「新しい生活様式」を取り入れた、新たな取組を見出さなければならないという厳しい事態になりました。

こうした状況の中、県内では、松江地区更生保護女性会で、松江保護観察所や更生保護施設しらふじに手作りしたマスクを持ち寄り、御寄贈いただきました。この新しい取組は、全国でいち早く実践され、全国各地へ広がっています。大変な時期だからこそ、女性らしい細やかさや温かさを活かした、こうした新しい取組を見出していただけると心強く感じます。

令和2年度の更生保護行政の重点事項に掲げられて

いるのは、新たな民間資金の活用です。直接対面して、更生保護女性会の取組に賛同いただき、募金をお願いするということができないのであれば、インターネットを活用したクラウド・ファンディングという仕組みの活用も御検討ください。これまで更生保護にかかわりのなかった人たちに活動を知ってもらい、活動の趣旨に共感する人たちが、新たな仲間に加わってくれることも期待されます。今年度は、独立行政法人福祉医療機構が法務省から活用支援事業を委託されており、直接サポートしていただけます。県外の更生保護女性会ではありますが、地区独自の取組を広く全国へ発信し、多数の賛同をいただいたところが次々と出ています。

今後策定予定の各地方公共団体における再犯防止計画で運営資金を援助していただいたり、庁舎にブースを開かせてもらって、広報させてもらったりすることも考えられます。

できることからコツコツと取り組んでいきたいと考えておりますので、御指導、御協力をお願いします。



ごあいさつ

島根県更生保護女性連盟

会長 山脇 里美

本来ならば「2020 東京オリンピックイヤー」で国内外が賑わいに包まれた年となったであろう令和2年。世界中がコロナ感染症COVID-19に見舞われ中止と自粛の嵐、その上酷暑、当地を始め全国でのゲリラ豪雨災害と実に今年は記憶に残る特別な年になってしまいました。

その中、7月20日第二回理事会におきまして、第八代板倉靖子県女性連盟会長の後任を思いもかけず引き継ぐ事となりました。日々責務の重さを痛感しております。

これまでの六十余年の長きにわたり歴代諸先輩によって築かれて参りました「更生保護女性会綱領」を規範とする、「犯罪や非行のない明るい地域作り」の為、現代という時代に沿って更生保護に求められる諸活動を、地区会の特色を活かし、会員と共に一層の充実を図るよう進めていければと思っております。ご協力のほどお願い申し上げます。

今年度は、各地区の更女総会を始めとして日本更生保

護女性の集いや中国地方更女研修・中央研修会ともにコロナ感染拡大防止の為中止。また、新会員研修・更生保護事業関係者顕彰式典そして、愛の図書贈呈式までも縮小開催となりました。コロナ禍の中、各地区の更女活動も随分と影響が出たと思います。中でも「愛の募金」活動も各戸にお願いするのが大変だったと推察いたします。

広報誌「更女しまね」も第7号発行を迎え、「こころ一つに」コーナーでは各地区でのコロナ下のボランティア活動が紹介されています。また、単独での地区発行の広報誌や周年記念誌からも興味深い活動の様子が掲載され、松江地区更女は手作りマスクをいち早く「しらふじ」へ寄贈されました。斐川地区更女は固形石鹸を手洗い消毒用にと地区内の小中学校やこども園に、平田地区更女では企業からの浄財を活かし、全幼・保小中に除菌液を贈呈されるなど細やかな女性ならではの活動が紹介されていました。更生保護施設や子供達への素晴らしい支援協力です。

さて、近年他県ではクラウドファンディングの取り組みが行われています。当県更女連盟でも新しい広報活動として取組んでみればと思っております。地域を編む為にも、世間の方々に更生保護女性会の活動を知って頂き、会員増強の一助になればと思っております。日々の活動を楽しく和やかに進んでまいりましょう。

島根県更生保護女性連盟役員名簿

令和二年度～三年度

- 会 長 山脇 里美 (江津)
- 副 会 長 青木 薫代 (松江)
- 中島 和子 (鹿島)
- 常 任 理 事 山崎 光恵 (安来)
- 川上 清子 (大社)
- 杉山 悦子 (佐田)
- 宮川 公子 (益田)
- 監 事 成合 千恵 (松江)
- 落合美恵子 (松江)



各地区理事名簿

- 佐々木幸子 (隠岐の島)
- 上田 正子 (海士)
- 山崎 光恵 (安来)
- 小林みず江 (広瀬)
- 為国 角 (伯太)
- 青木 薫代 (松江)
- 板倉 靖子 (東出雲)
- 小川久美子 (美保関)
- 小川美知子 (島根)
- 中島 和子 (鹿島)
- 渡部天津子 (八束)
- 堀江 久世 (八雲)
- 板谷 裕子 (玉湯)
- 野津千洋子 (宍道)
- 藤原美紀子 (大仁)
- 前田 榮子 (飯石)
- 大谷 民子 (平田)
- 嘉藤 馥美 (出雲)

事務局

- 安達美紀江 (東出雲)
- 福頼恵美子 (東出雲)
- 今田 昭子 (江津)

- 江角 佳子 (斐川)
- 杉山 悦子 (佐田)
- 柳樂 利子 (多伎)
- 川上 清子 (大社)
- 富永富久恵 (邑智)
- 山脇 里美 (江津)
- 高木禮為子 (浜田)
- 宮川 公子 (益田)
- 中村 俊子 (鹿足)

令和元年度中央研修に参加して

佐田地区 杉山 悦子

昨年10月23日～24日の2日間、東京のアルカディア市ヶ谷私学会館を会場に、「地域を編む」をテーマに標記研修が開催され、当県からは邑智地区の富永富久恵さんと参加しました。

研修の概要は、1日目は開講式、日更女千葉景子会長の「地域を編む」と題した講話、「関係団体との連携・協働を進めるために」と題した講義、グループワーク、サロン形式のグループ討議、振り返り、交流会。2日目は、講義、講評、閉校式と盛り沢山の内容でした。

2日間にわたり、「地域を編む」ために「連携や協働とは何か」や「具体的な進め方」を学ぶ内容構成でした。

盛り沢山の研修の中から特に印象に残ったことは、次の3点です。

① サロン形式のグループワーク

まず様々な分野で活動している9団体の8分ずつ活動の発表を聞く、次に14グループ（発表団体から1名、研修員7～8名）に分かれて意見交換。これを3回ローテーションで行う。この方法の利点は、少人数で意見が述べやすいこと、団体の活動の詳細な内容を聞けること、参加者の地域の課題や解決方法について意見交換できること。地域でも是非取り入れたい手法である。

② 更女活動の財源確保方法を考える

収支の見直し（不要な事業の削減等）、地域にある様々な資金源を探す（助成金等）、資金源のバランスを考える（自前で、会費額見直し、利用料徴収、寄付等）。活動推進のために、上記について改めて考えたい。さらに、クラウドファンディングを取り入れる。これは、自分が立ち上げた事業にインターネットを活用し賛同者から資金を調達する方法。詳細は割愛するが、訴える力や共感を引き出す力が必要なため、事業の目的や計画、金額設定の精査が必要になる。また、不特定多数の人に更女活動のPRができる利点がある。

③ 県を超えた更女の仲間との存在

全国から参集した110名の参加者の中には、直前の台風15号・19号の災禍の中、研修に参加された方や過去の災害の中での更女活動をされた方もあった。全国の更女の仲間と同じ場と時を共有し共に学び合えたことは得難い体験であった。

最後に、本研修を受ける機会を与えていただき、深く感謝いたします。



更生保護女性会新会員研修に参加して

江津地区 安原八千子

令和元年10月17日、松江保護観察所において標記の研修が開催され、江津市より2名の新会員が出席しました。もとより「コウジョ」ってなんだろうというような意識でしたから、どんなお話が聞けるのか、非常に期待して出席いたしました。

講話の中で、発足の歴史や、組織、各地の活動の様子など詳しいお話がありました。中でもDVDでの「ハンド」は、実際に非行に走った少年の就職を進んで引き受けている方の実話が心に残りました。

日本社会は、一度過ちを犯した人への蔑視は厳しいものがあるのが実情です。その後、ある工務店を経営する方が同じように非行に走った若者を進んで採用しているというテレビを見ました。自らは難病を患い、余命宣告を受けている最中も、終始一貫採用を続けておられるのです。社長さんの信念は、「どんな前科があるにせよ、使ってみないと分からない。」というものでした。なんと強くて潔い姿勢でしょう。

振り返って、差別や偏見の心はないと自分では思うの

ですが、世の中や他人の目を気にし、流される心があるのではという思いがしてきました。世界中に、差別や偏見の事象があふれています。麻痺する世の中や自分が怖いと思います。どんな世の中になろうと、口先だけでなく、自ら、優しく正しい心を実践していきたいと思いました。

去る10月1日に私の地元の保育所に更生保護女性会の皆様が来訪されました。更女の皆様方の熱心な紙芝居や朗読、腹話術の演技に感謝の気持ちがこみ上げて参りました。心から子どもたちの健全育成を願っておられることをひしひしと感じました。また、西日本豪雨の被害に際し、私ども会員に、会より過分なお見舞いをいち早くお届けいただき、地域との連携を心がけておられることも感じました。新会員研修を機に、一つ一つの活動に、明るく元気に取り組みたいと思います。



令和元年度保護司・更生保護女性会・BBS会員連携強化研修

浜田地区 森田 玲子

- ・主催 松江保護観察所
- ・共催 島根保護司連合会、島根更生保護女性連盟、島根県BBS連盟
- ・期日、場所 1回目 11月1日(金)
浜田市旭支所会議室
- 2回目 11月10日(日)
市民体育館及び旭センター

11月1日(金)

松江保護観察所から「旭ふるさとまつりにおける広報活動」についての説明を受け、更生保護のペンギンプラ板作りをした。プラ板は、厚いプラスチックに蛍光ペンで色付けをし、オーブントースターで仕上げた。

11月10日(日)

浜田地区更女は「島根あさひ社会復帰促進センター」から案内があり、執行部4人で参加、「協賛出店」した。食器、洗剤、入浴剤等の生活用品の「バザー」と「ビ-

ズのストラップ作り」の指導をした。

私の活動内容は、ストラップの装着・資材の配布と若い親御さんに更生保護の話を聞いてもらうことでした。広報係の保護司さんは、来場者に一生懸命声をかけ、多数の人にストラップを手渡されました。

この研修の趣旨である3団体の連携・更女ボランティアの協働の在り方を学びました。



各地区更生保護女性会は、会員が毎年愛の募金を集めています。

その募金の中から地域の幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校への図書贈呈、県連盟を通じて10か所の矯正・更生施設に「愛の図書」として贈呈をしています。

昭和36年に県連盟が結成された年を第一回目として以降毎年続けられ、本年令和二年度で60回を数えます。なお、島根更生保護10年誌によれば、「昭和28年ごろから“社会を明るくする運動”の実施事項として、愛の図書寄贈運動が行われていました。実施委員であった連合婦人会の協力を得て実施され、当初は古本を集めていましたが廃物同然の本ばかり集まり、5～6年後に募金に切り替えた。」との記載があります。

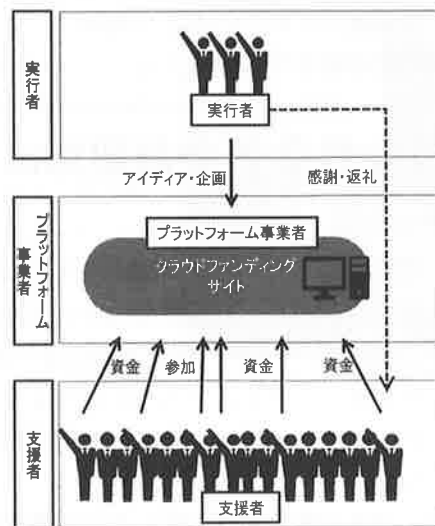
先輩諸姉の労をいとわぬ活動により地道な更女活動が続いておりますが、生涯現役時代を迎え会員の高齢化や会員数の減少が進むのは否めません。

そこで、法務省では“更生保護団体によるクラウドファンディングについて”と題して日更女だより第92号の中で次のように紹介しています。

(1) 活動資金の調達と会員の確保はボランティア団体共通の課題

活動費の多くは会費で賄われており、会員数が減少している中、活動の先細りが懸念されている。

(2) クラウドファンディング(略称CF)とは



NPO法人やボランティア団体等で急速に広まっている資金調達方法である。

(3) 共感集め=会員確保

CFは一時的な資金集めではなく関わりのなかった人たちに活動を知ってもらい、趣旨に共感する人たちが仲間に加わってくれることも期待できる。

(4) マニュアルを配布します

日更女だより第92号掲載より

時代の流れと共に、私たち更女の活動や意識の進化も必要になってきます。法務省の考え方も取り入れながら、活動のあり方や地域性を活かした方法も今後の研究課題です。

“こころ一つに…” しまねの更女

～コロナ下の取り組み～

松江地区

Part 1

「新型コロナウイルス」により生活に様々な自粛・気遣いが必要となり、更女も思うように活動できなくなりました。そこで感染防止に役立つマスクを手作りしたらという話が持ち上がりました。



3月に松江でコロナウイルス感染者が発生すると同時に市販のマスクが姿を消し、マスクどころか手作りするための布もゴムも見当たらなくなりました。市内の心当たりを何か所も回り何とか材料を調達しました。役員や会員が協力して思いのほか立派なマスクが108枚完成し、早速松江保護観察所と島根更生保護法人しらふじへ送りました。役に立てたら幸いに思います。

Part 2

「新型コロナウイルス」の影響により、様々な活動が制限される中、松江地区更生保護女性会も総会を中止し、また昨年創立60周年を迎えた記念大会も中止いたしました。

二つの大会を中止し、この資金を社会に役立てたいと役員会で話し合った結果、「新型コロナウイルス」の影響で収入が減り生活に困っておられる市民に支援をしておられる松江市社協に送ることに決めました。5月25日役員の代表が社協を訪れ、青木会長が兼折専務理事に寄付金30万円をお渡ししました。コロナウイルスの影響で生活が苦しくなった人へ送る食料品、日用品の購入に充てられるということでした。



平田地区

平素から私たちの活動に対して地元企業から大変ご理解とご支援を頂いています。今年度も多額のご支援を頂きました。新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動自粛が続く中、平田地区更生保護女性会は、“地域の子供たちを新型コロナから守ろう”と地域の全小・中学校、幼稚園、保育所へ除菌液410本を贈呈しました。入手困難な除菌液を地元企業の社長様に手を尽くして探し

て頂き、大量入手することが出来ました。

私たちの活動を心からお認め頂きご支援くださる地元の方々がいらっしゃることに誇りを持って進んでいきます。



斐川地区

Part 1

感染症対策の基本の一つである手洗いの励行に役立ててもらおうと、石鹸使用の小・中学校、幼稚園、保育園に固形石鹸を配布した。



Part 2

斐川町の更生保護女性会は7支部から成り立っている。斐川町の総会は4月23日(木)に予定されていたが、コロナ感染症予防のため中止となった。

総会中止が続く中で、一つの支部での新しい試みによるものを紹介したい。役員交代の年度でもあり、次の条件(1 三密を避ける 2 会員の健康な姿が拝見できる 3 役員が紹介できる 4 総会の資料配布ができる 5 会員会費の集金ができる)を満たしながら実行できる方法を模索した。その結果、流れ焼香を擬した形で、緊急事態宣言の解除を受けて、場所、時間(13時半から14時半)を指定して行った。お茶と以前研修で行ったカステラを役員で作製、総会資料に添え役員のおもてなしとした。



第59回愛の図書贈呈式を行いました



県更女「愛の図書」贈呈先

松江 刑務所

島根あさひ社会復帰促進センター

松江少年鑑別所

わかたけ学園

中央児童相談所

出雲児童相談所

浜田児童相談所

益田児童相談所

島根更生保護会

島根県女性相談センター

美保学園閉庁に際し73年分の感謝を込めて

園長 森 浩彰

1947年5月、美保学園（当時「美保少年院」）が米子市大篠津の地に開設されて73年。往時の資料を紐解くと、当園は旧海軍跡地に設置されたところ、地元の方々の同跡地返還への願いは強く、当園開設には地元から猛反対を受けた旨が記されています。それにもかかわらず、地域の皆様、特に貴連盟の皆様からは、長年にわたる「愛の図書」の御恵贈をはじめ、当園在院者の立ち直りに絶大な御支援をいただいて参りました。

「施設を囲むフェンスはわずか1メートルほどしかなく近くの海岸や最寄り駅などで定期的に活動する機会をお許しいただくなど 少年院とは思えないほど開放的な環境の中で 生徒たちの立ち直りに向けた矯正教育を展開させていただくには 貴連盟をはじめとする地域の皆様からの温かな御理解と御協力そして御寛恕が必要不可欠であり」長年にわたる地域の皆様からの物心両面にわたる絶大な御支援に感謝の言葉もありません。

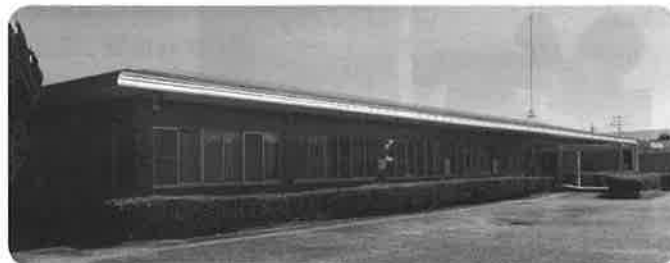
当園は老朽化等に伴い、2021年3月をもって閉庁という区切りを迎えます。職員・在院者一同、寂しさ以上に皆様への感謝の思いは尽きませんが、「愛の図書」利用者代表の感想文をもって御礼に代えさせていただきます。

73年間、本当に有難うございました。

（利用者代表から）
僕は今まで本を読む方ではありませんでした。美保学園には「愛の図書」というコーナーがあり、有名な本が沢山ありました。少年院に来て落ち込んでいた僕は、本の世界にのめり込みましたが、その中で、本に出てくる話を詳しく知りたいたいと思い、調べていくうちに「勉強って楽しい!」と感じるようになりました。そして今は、もっと色々なことを学びたいと思い、高校進学を目標に頑張っています。僕がこの夢に辿り着くことができたのは、「愛の図書」のおかげです。これからも大きな愛で、沢山の人たちに夢を見せてあげてほしいと思います。僕も社会に復帰して夢に向かって頑張ります。



美保学園の「愛の図書」コーナー



美保学園

島根県更生保護女性連盟は

★組織

・島根県内の地区更生女性会員で組織する



★目的

・女性としての立場から松江保護観察所並びに島根県保護司会連合会等と連携して更生保護事業を推進するとともに各地区更生保護女性会相互の連絡を図り、犯罪のない明るい社会の建設に貢献することを目的とする

★役員

- 1) 会長 1名
 - 2) 副会長 2名・・・理事会において理事の中から互選により選出する
 - 3) 常任理事 若干名・・・理事会において理事の中から選出する
 - 4) 理事 各地区会更生保護女性会長をもって充てる
 - 5) 監事 更生保護女性会員の中から理事会において選出する
- * 役員任期は2年とする。但し再任は妨げない

★事業 (令和2年度)

	島根県更生保護女性連盟	中国地方更生保護女性連盟	日本更生保護女性連盟
4月		理事会	
5月	理事会 第70回「社会を明るくする運動」 島根県推進委員会		
6月			日本更生保護女性連盟協議員会 日本更生保護女性の集い
7月	理事会 「社会を明るくする運動」強調月間 〔愛の募金〕活動	正副会長会	
8月	人権・同和問題を考える女性の集い		
9月		中国地区更生保護女性会員研修 正副会長会	
10月	新会員研修 「社会を明るくする運動」作文コンクール審査会		日本更生保護女性会員中央研修
11月	島根県更生保護事業関係者顕彰式典		
12月	理事会 「愛の図書」贈呈式		日本更生保護女性会組織強化研修
2月		正副会長会	
他	「更女しまね」年1回発行 保護司・更女・BBS 連携強化研修 県更女常任理事会		

※今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、県連の9月までの全ての事業（但し7月理事会は役員改選の為実施）、及び中国更女、日更女は年内の事業はすべて中止となりました。又、県連、中国更女、日更女いずれも、決算予算・事業報告計画は書面表決にて行なわれました。

令和2年度 受彰おめでとうございます

令和2年6月9日(火)に有楽町朝日ホールで行われる予定の第57回“日本更生保護女性の集い”は、
 コロナウイルス感染拡大のため中止になりました。法務大臣感謝状・日本更生保護女性連盟会長表
 彰贈呈は行われず、11月19日に松江市で開催された「令和2年度島根県更生保護事業関係者顕彰式典」
 にて授与・伝達が行われました。また同式典にて中国地方更生保護委員長感謝状・中国地方更生保
 護女性連盟会長表彰・松江保護観察所長感謝状が県代表各一名に授与されました。

令和2年度被表彰者

賞状

**日本更生保護
女性連盟会長表彰**

青山 雅子 (鹿島地区)
 三浦ミナコ (江津地区)
 中村 俊子 (鹿足地区)
 本多 國子 (隠岐の島地区)

賞状

法務大臣感謝状

山中 洋美 (飯石地区)
 大谷 民子 (平田地区)

- 中国地方更生保護委員会委員長感謝状 23名
- 中国地方更生保護女性連盟会長表彰 28名
- 松江保護観察所長感謝状 144名



編集後記

これからの日本 いや 世界はどのような時代になるのでしょうか。

新型コロナウイルスの猛威にすべての活動を自粛し、高齢者の多い更女会員も感染の恐怖におびえました。長期休業の学校では子どもたちの心身の健康を一日でも早く取り戻すべく努力の毎日が続けておられます。自粛と緩和のはざまの中でも我々に何かできることはないだろうか模索した活動を知りました。日頃の更女活動の在り方と工夫が大切ではないかと改めて感じました。

以前のような活動のできる時期がいつ戻るかはわかりませんが、今こそ更女の底力を発揮する時ではないかとも思います。
 (佳)

- 編集委員長 江角 佳子
 編集委員 山脇 里美 板倉 靖子 野津イマ子
 樋野 淑美 杉山 悦子 高木禮為子
 題 字 鐘築 章恵

